

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年10月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年10月10日～10月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の10月の状況を見ると業況DIは、前月より4.1ポイント悪化の▲18.1となった。

2017年9月以来74ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲20.5、当月と比べ2.4ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2023年11月～ 2024年1月
業況	▲20.2	▲19.4	▲16.0	▲14.6	▲14.0	▲18.1	▲20.5
売上	8.5	2.2	4.6	5.1	▲0.7	▲5.5	▲18.9
採算	▲20.9	▲17.9	▲17.6	▲18.2	▲12.6	▲17.3	▲24.5
仕入単価	▲67.4	▲67.1	▲65.6	▲69.3	▲63.7	▲55.1	▲48.0
販売単価	31.8	32.8	30.5	33.6	27.5	24.4	15.0
従業員	29.4	32.8	34.3	35.0	34.8	37.0	33.8
資金繰り	▲10.1	▲11.9	▲6.9	▲9.5	▲9.6	▲9.5	▲12.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 2023年11月～ 2024年1月
建設	▲39.3	▲35.7	▲26.7	▲21.8	▲33.3	▲20.0	▲26.6
製造	▲23.4	▲25.8	▲13.8	▲15.7	▲3.5	▲27.6	▲20.7
卸売	▲10.0	▲9.7	▲3.1	▲10.8	▲10.0	▲6.7	▲6.6
小売	▲14.3	▲22.7	▲33.3	▲18.2	▲19.1	▲25.0	▲25.0
サービス	▲10.0	0.0	▲5.3	▲4.3	0.0	▲11.1	▲27.8

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格上昇による燃料費高騰・物流業界の働き方改革・担い手不足で来年以降もおそらく経費の上昇が続く。北海道の経済関係予算は道央に集中し、建設のみならず旭川の経済の1～3年先はかなり冷え込むのではないかと懸念している。（総合工事） ・政府は解消したとしているGDPギャップは、有識者によると15兆円程度は存在すると指摘されている。そのGDPギャップに見合う経済対策（減税）をスケジュール感を持って進めていただくと、我々の業界も少しは良くなる方向に向かうのではないかとと思うので素早い対応を望みたい。（設備・その他） ・注文住宅の受注減は建設業界全体が直面している課題であるが、少ないパイをいかにして成約に結び付けるかがキーポイントであり、DM送付・SNSによる情報発信・見学会の開催など手を打っているが、思うように顧客獲得に至っていないのが現状である。受注契約数は前年ペースを下回っており、業況は厳しい状況が続いている。足元の資金繰りに問題はないものの、減収が続くと今後資金不足の発生が懸念される。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・加工品の出荷で売上は昨年とほぼ同等であるが、収穫量が少ないことから今後売上の減少が考えられる。根菜類の加工もこれから始まるため、これらで売上増を目指したい。（食料品） ・今年の春に商品を一新し、価格も大幅にUPさせているため、一時的に販売が落ちている。（家具・木材） ・高卒者の就職希望者がほぼ無い。進学助成がいるものと思う。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・秋が短かったため小売店及び量販店の売上げは苦戦していると思う。加えて冬物導入等で売場はパンパン状態。（繊維・衣服等） ・中国の禁輸政策による水産物の在庫増に伴う相場下落。（飲食物品） ・10月までにインボイス制度の対応に時間を割かれていたが現在も免税事業者の確認作業など行わなければならない対応がまだ多い。業況については、例年よりも若干良い。（機械鋼材） ・当月の業況は前年同期に比べ微減に推移。主たる顧客である営農者の収穫もほぼ終了。夏場の高温障害により品質・数量にばらつきが多く、今後はその対策に応じた商品の提案に努めるとともに新規顧客の開拓を通じて業客の拡大を目指していく。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・10月2週目から気温が急に下り、初めて秋らしい天候になってきたが、来店客の客足が少なく、売上が大変厳しい状況。悪天候にも左右されているよう。物価の高騰により買い控えになっているのかもしれない。（衣服身回品） ・引き続き増収。観光関係需要が好調で全体の売上げを押し上げている。しかし、今後冬場に入ることによって売上が継続して好調となるかは不透明であり、原材料の高騰は以前ほどはないがまだ続いている。光熱費も政府補助で影響は緩和されているが、高止まりが続いており利益計上に悪影響。人材不足は解消せず、多少の賃金上げでは採用に結び付く要因にはない。大幅な最低賃金上げ等が継続すると、設備投資がかかっても生産性向上・効率化を優先していかなければ営業継続は難しい状況。（食料品） ・物価高の中、節約ムードが広がり燃料油以外の商品の販売が低迷している。経費増加の中、販売価格への転嫁遅れで賃金上昇分の支出を回収できていない。（その他） ・営業費（エネルギー価格や人件費）の上昇に対して収益（売上）は増加しておらず利益は減少している。これ以上のコスト高は厳しい状況。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・客足は落ち着いてきたが、再度旅行支援がスタートするので多少期待。スタッフ不足が引き続き問題となっている。（ホテル・旅館） ・人材不足により外部委託に頼らざるを得ない状況が続いている。新卒者1名の採用を予定しているが本音を言えば、即戦力となる経験者を採用したい。（その他） ・エネルギー費・食材費・人件費の高騰でこの冬、持ち応えられるかどうかという状況まで追い込まれている。人員不足だが、補充しても給料が払えなくなるジレンマ。（飲食） ・事業概況は引き続き回復基調での推移。これから季節的にはさらに収入は上向くことが期待できる。燃料価格等の変動要因・借入金の返済負担増加など逆風も強い中ではあるが、経営健全化に向け金融機関等との連携強化が鍵となる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI5.2 ポイント改善、採算 DI6.6 ポイント改善、仕入単価 DI9.7 ポイント改善、販売単価 DI5.1 ポイント悪化、資金 DI5.5 ポイント改善、従業員 DI7.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.3 ポイント改善となった。業種別では、総合工事 7 ポイント悪化、設備・その他 7 ポイント、建築業 54 ポイント改善となった。工事受注額は昨年より増加しているが、資機材価格・燃料・電気代等の高騰により利益率は減少傾向にあるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI38.6 ポイント悪化、採算 DI23.9 ポイント悪化、仕入単価 DI5.6 ポイント改善、販売単価 DI5.0 ポイント悪化、資金 DI10.5 ポイント悪化、従業員 DI0.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 24.1 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 13 ポイント、印刷・出版 30 ポイント、家具・木材 2 ポイント、金属窯業他 50 ポイント悪化となった。11 月以降値上げ予定のため、売上上昇の見込みとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI16.7 ポイント改善、採算 DI10.0 ポイント改善、仕入単価 DI20.0 ポイント改善、販売単価 DI 横ばい、資金 DI3.2 ポイント改善、従業員 DI10.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、機械鋼材、その他 13 ポイント悪化、繊維・衣服等 40 ポイント、食料品 11 ポイント改善となった。敷地内には新しい施設と古い施設が混在しており、社内にて今後の老朽化対策に関する協議が行われているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI0.7 ポイント悪化、採算 DI1.0 ポイント悪化、仕入単価 DI6.9 ポイント改善、販売単価 DI10.7 ポイント改善、資金 DI5.8 ポイント悪化、従業員 DI1.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.9 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 7 ポイント改善、衣料品、その他横ばい、自動車 17 ポイント悪化となった。10 月になっても値上がりする商品が多い中、小麦粉先物価格下げを受け一部同業者は商品価格値下げを発表。市中価格動向が不明瞭との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI2.6 ポイント悪化、採算 DI19.8 ポイント悪化、仕入単価 DI7.0 ポイント悪化、販売単価 DI18.1 ポイント悪化、資金 DI5.0 ポイント改善、従業員 DI5.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.1 ポイント悪化となった。業種別では、飲食 25 ポイント、運送 8 ポイント改善、その他横ばい、理美容・クリーニング 150 ポイント、ホテル・旅館 50 ポイント、整備業 25 ポイント悪化となった。売上は上がって来ているが、人手不足が深刻な状況になっているとの声も寄せられている。</p>